第2期 上松町総合戦略（概要版）

○上松町総合戦略の位置づけ

町は、国が定めた第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（2020年（令和2年）12月21日）及び県の総合戦略を継承した「しあわせ信州創造プラン 2.0」（計画期間 2018年度（平成30年度）～2022年度（令和4年度））を勘案し、『第2期上松町地方人口ビジョン』に示す2060年（令和42年）までの人口の将来展望を踏まえ、町の実情に応じた、まち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画を定めます。

○対象期間

対象期間は、『第2期上松町地方人口ビジョン』が示す2060年（令和42年）までの人口の将来展望を踏まえつつ、上松町第6次総合計画の前期基本計画期間と同様に、2021年度（令和3年度）～2025年度（令和7年度）までの5年間とします。

○政策5原則を踏まえた取り組み

本戦略に基づく事業の実施にあたっては、国の総合戦略に盛り込まれた「まち・ひと・しごと創生」政策5原則（自立性・将来性・地域性・総合性・結果重視）の趣旨を踏まえ、事業の妥当性を、個々に判断しながら取り組みます。

	プラス要因	マイナス要因
内部環境 (町内のヒト・モノ・カネ・情報などの資源)	<p><強み Strengths></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎森林と木曾川＝緑と水が豊かな自然環境 ◎地域ブランドとしての「木曾ヒノキ」 ◎自然環境、観光資源 赤沢自然休養林、寝覚の床、木曾駒ヶ岳、御嶽山 中央アルプス国定公園 ◎自動車部品製造業の立地 ◎文化・歴史 御神木、旧中山道、木曾の棧 ◎特産品メニュー えごま油、川魚、木曾木炭 ◎木材加工 小木工（桶など）、神社仏閣、仏像 ◎人材育成 上松技術専門学校 	<p><弱み Weaknesses></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎人口減少の加速、高齢化の急進 ◎若者の転出増大・後継者不足 ◎四季型の観光資源がある一方で、通年雇用が実現していない産業構造 ◎山間傾斜地ゆえの少ない耕地面積 ◎広大な面積の耕作放棄地と拡大傾向 ◎道路の利便性向上と共に、買い物などの域外消費率が増大 ◎地域資源の活かし方について、特に「連携」の点で改善余地がある ◎滞在型観光をめざすため必要な宿泊施設数が少ない ◎地方交付税等依存財源割合約70% ※地方交付税は歳入の約50%
外部環境 (社会経済環境、近隣市町村状況等)	<p><外的機会 Opportunities></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎若者の都市離れ傾向 ◎テレワーク、ワーケーション等新たな働き方の普及 ◎空き家特措法の施行 ◎長野県ゼロカーボン戦略 脱炭素削減目標 2030年60%削減 (2010年比) 	<p><競争劣位 Threats></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎御嶽山噴火による観光への悪影響 ◎コロナウィルスによる観光業の低迷 ◎全国的な外国人観光客の減少 ◎国有林経営の合理化、人員削減 ◎木材木工業の低迷

地域の現状分析「強み」と「弱み」（SWOT分析）

○総合戦略の方向

基本理念

第2期上松町総合戦略における基本理念は、第1期の基本理念を引き継ぎ、次のように定めます。

まちでしごとを育て、まちを育てるしごとづくり
ひのきのように、美しく、たくましい、まちをめざして

○基本理念を実現するための取り組み

本町は、ひのきの中でも特に優れる「天然檜」の産地として、伊勢神宮式年遷宮の御神木を育み続けてきた事をはじめ、世界に冠たる日本の木の文化を支えて来ました。

幾百年の歳月を超えて人々の暮らしを見守ってきた檜の姿は、自然を愛する町民の心の象徴であり誇りでもあります。総合戦略では、檜に象徴される緑豊かな森と大地をはじめとする地域の資源を活かす、しごとづくり・まちづくりを戦略構築の基本理念とします。

- ◎伝統産業を守りつつ
新たな産業と担い手が息づく まちづくり
- ◎住み続けたい・住んでみたい、
帰りたい 選ばれるまちづくり
- ◎安心して子育てができる まちづくり
- ◎一人ひとりいきいきと
安心して暮らし続けられる まちづくり

基本目標1

伝統産業を守りつつ
新たな産業と担い手が息づくまちづくり

基本目標の考え方

上松町は、農林業を主要産業として発展してきた町であり、特に林業に関しては、檜を利用した伝統工芸品を始めとして、様々な木工産業が根付いています。これら伝統産業を守りつつ、新たな産業を創出させることは、地域の活力の創出に繋がります。さらに、産業の発展は様々な人の働く場の創出に併せ、多様化するライフスタイルやワークスタイルにも対応することができます。

一方、伝統産業を維持していくためには、新たな担い手の育成も重要です。

施策目標	基準値 2015年 (平成27年)	目標値 2025年 (令和7年)
生産年齢人口	2,389人	1,958人

基本目標3

安心して子育てができるまちづくり

基本目標の考え方

町では少子化が進行し、近年では1年間に産まれる子どもの数は、10人前後まで減少しています。

町の活力を維持・向上させるためには、少子化対策が急務であり、そのためには「安心して産み育てることのできるまちづくり（結婚から子育てまで継続する少子化対策）」を推進する必要があります。

施策目標	基準値 2020年 (令和2年)	目標値 2025年 (令和7年)
子育て支援への満足度 (「満足している」、「どちらかといえば満足している」の合計値)	28.1%	35.0%

横断目標1

まちづくりの原動力となる多様な人材の育成

長期的な取り組みを継続するために、様々な活動においてリーダーシップを発揮でき、まちづくりの原動力となる「まちづくりのリーダー」を育成します。

基本目標2

住み続けたい・住んでみたい、帰りたい
選ばれるまちづくり

基本目標の考え方

人口減少の要因のひとつに人口の流出が挙げられています。特に若い世代の流出が見られます。若者が住み続けたくない理由の多くは、「雇用問題－就職場所がない、長距離通勤」「将来性－将来が心配、不安、設計が立たない」とされています。

人口減少を抑制し活力あるまちづくりを進めるには、若者の定住や帰郷、移住を促進することが必要であり、そのための対策が急務です。

施策目標	基準値 2020年 (令和2年)	目標値 2025年 (令和7年)
人口の社会減少を抑制する (住民基本台帳人口)	△74人/年	△50人/年以内

基本目標4

一人ひとりがいきいきと
安心して暮らし続けられるまちづくり

基本目標の考え方

日本全体が高齢化が進むなか、町では全国より速いペースで高齢化が進展しています。そのため、高齢者のみの世帯、独居の高齢者世帯が増加し、様々な支援が必要となっています。また、特別な支援が必要な町民もいます。

住み慣れた地域で自分らしく生活し続けることは、町民誰もの願いです。

さらに、町内には地形的特徴から、浸水が想定される区域、土石流等の災害の発生により集落が孤立する可能性があり、対応の検討が必要です。地域コミュニティで助け合い、被害を最小限に抑えることができるような取り組みの継続が求められています。

施策目標	基準値 2019年 (令和元年)	目標値 2025年 (令和7年)
上松町に住み続けたい、どちらかといえば住み続けたいと考える住民の割合（総合計画アンケートによる）	66.7%	70.0%

横断目標2

情報ネットワークによる情報発信の推進

積極的な情報発信により、町民や移住者の生活の利便を向上させ、快適な生活を送ることができるよう取り組みます。

上松町総合戦略施策の体系図

上松町第6次総合計画の将来像

キャッチフレーズ

新しい時代に
いのち輝き笑顔あふれる
“あげまつ”

基本理念

悠久の大自然と森林（もり）が育む文化と歴史を守りつつ、新しい時代に向け一人ひとりの命を大切にし、だれもが住み続けたい、住んでみたい、帰りたい、選ばれる上松町

上松町人口ビジョン

	2020年	2040年		2060年	
	実績	社人研推計 準拠	→ 将来展望	社人研推計 準拠	→ 将来展望
総人口	4,361人	2,472人	→ 3,308人	1,268人	→ 2,549人
年少人口	399人	177人	→ 371人	80人	→ 328人
生産年齢人口	2,132人	1,000人	→ 1,545人	445人	→ 1,332人
老年人口	1,830人	1,295人	→ 1,392人	743人	→ 889人
年少人口割合	9.1%	7.2%	→ 11.2%	6.3%	→ 12.9%
老年人口割合	42.0%	52.4%	→ 42.1%	58.6%	→ 34.9%

2020年は住民基本台帳による
2040年以降は、2015年国勢調査をベースとした将来人口推計

将来展望を実現するために

- 安心して妊娠・出産・子育てができ、子どもに充実した教育を受けさせることができる環境の実現により、「住み続けたい・住んでみたい・帰りたい 選ばれる上松町」への実現を目指し、**2030年（令和12年）の合計特殊出生率を1.84人（県民希望出生率）とし、以降維持するもの**とします。
- 高校卒業後等の就職に伴う転出抑制や、大学進学、卒業後の就職で転出していった世代が再び上松町へ戻り、就労の希望を実現することができる雇用環境を創出し、Uターン・Iターン・Jターン等の促進を図ることにより、「住み続けたい・住んでみたい・帰りたい まちづくり」への実現を目指し、**2040年までに社会移動数が均衡するもの**とします。

住み続けたい・住んでみたい・帰りたい 選ばれる上松町の実現

総合戦略が目指す姿

まちでしごとを育て、
まちを育てるコミュニティの
ひのきのよこば、美しゅう、
たくましく、まちをめぐろう

基本目標1

伝統産業を守りつつ 新たな産業と担い手が息づく まちづくり
○農業の六次産業化への取り組み
○伝統産業の継承と新たなスタイル構築への取り組み
○働く場の魅力向上と人材育成への取り組み

基本目標2

住み続けたい・住んでみたい・帰りたい 選ばれるまちづくり
○郷土愛醸成のための教育の充実
○多くの人々が「あげまつファン」になるまちづくり
○公営住宅等、住宅供給への取り組み

基本目標3

安心して子育てができる まちづくり
○結婚の望みをかなえる 婚活支援・出会いの場などの結婚支援
○安心して産むことのできる 出産時の支援
○多様なニーズに対応した 保育サービスの充実
○町民の健康を実現する 切れ目ない保健対策の実施

基本目標4

一人ひとりがいきいきと 安心して暮らし続けられる まちづくり
○いつまでも安心して暮らし続けられる 高齢者福祉対策
○誰もが安心して暮らすことのできる 障がい者福祉対策
○安全な暮らしを守る 防災・減災対策の強化

横断的目標1

まちづくりの原動力となる多様な人材の育成
○まちづくり人材育成への取り組み
○町外人材の活動支援
○町民活動への支援
○持続可能な地区の研究

横断的目標2

情報ネットワークによる情報発信の推進
○情報教育の推進
○行政情報発信手段の多様化と充実への取り組み
○住民や観光客等の利便の向上を目指す情報環境の整備